



上向台小だより

11月号
西東京市立上向台小学校
令和7年11月5日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

学力向上の土台を築く！ ICT 活用と読書推進に取り組む本校の挑戦

副校長 河又 学

毎年、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に行われている「全国学力・学習状況調査」ですが、調査の目的は、「全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る」、「学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」、「そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことです。その目的を果たすために、今年度の結果と今後の取組についてまとめました。

今年度は、昨年度の国語・算数に加え理科が追加され、3教科で実施されました。以下は今年度、本校と全国の平均正答率を比較した表です。

| | 本校平均正答率 | 全国平均正答率 |
|----|---------|---------|
| 国語 | 68% | 66.8% |
| 算数 | 60% | 58.0% |
| 理科 | 59% | 57.1% |

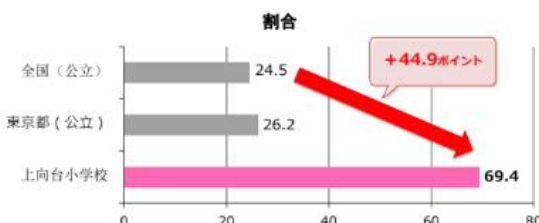
この結果から、本校は、国語・算数・理科の全ての教科で全国平均正答率を上回っていることが分かります。

また、これら3教科に加え、71項目の児童質問紙調査があります。その中で、本校と全国との差が大きかった項目は以下のとおりです。

「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対して、「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」と回答した児童は全国に比べて 44.9ポイント 高い結果でした。

5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（質問28）

✓ **ほぼ毎日（複数の授業で活用）**と回答した児童の割合

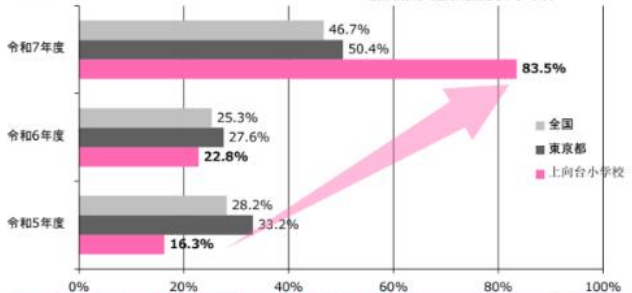


○ICT機器の授業での使用頻度が高く、他地域と比較して非常に進んでいる

また、同じ項目について、本校の令和5年度から令和7年度の経年変化をまとめたところ、67.2ポイントも上昇していました。

【参考】5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

✓ **ほぼ毎日**と回答した児童の割合

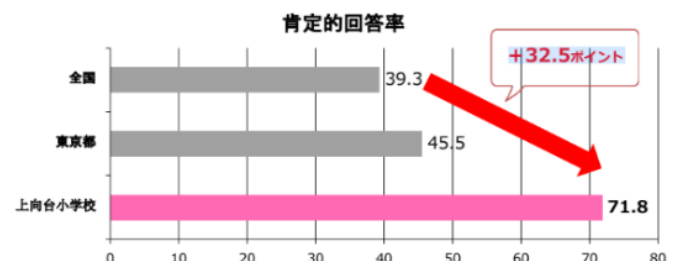


○令和7年度はICT機器活用率が大幅に増加し、全国・東京都と比べて高い割合を示した

次に、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができるといいますか」という質問に対して、「とてもそう思う」と回答した児童は、全国に比べて 32.5ポイント 高い結果でした。

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができるといいますか（質問29-1）

✓ **とてもそう思う**と回答した児童の割合

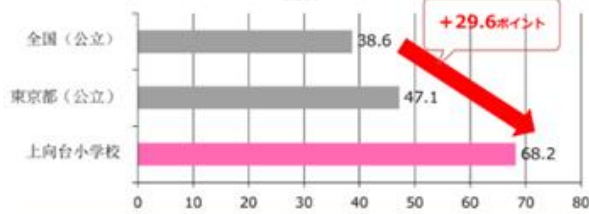


○ICTを活用した基本的なスキルに対する自信が高い

加えて、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができるといいますか」という質問に対して、「とてもそう思う」と回答した児童は全国に比べて 29.6ポイント 高い結果でした。

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか（質問29-4）

☑️ **とてもそう思う**と回答した児童の割合



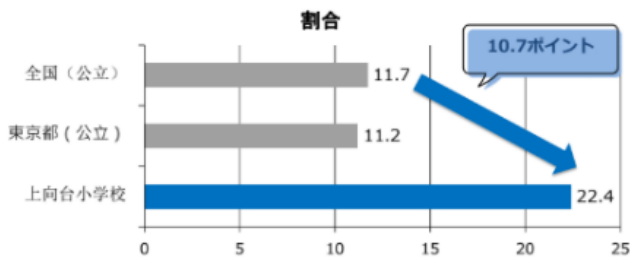
◎ICTを活用した基本的なスキルに対する自信が高い

一方、全国より下回っていた項目は、以下のとおりです。

「読書は好きですか。」という質問に対して、「当てはまらない」と回答した児童は、全国より 10.7ポイント 高い結果でした。

読書は好きですか（質問24）

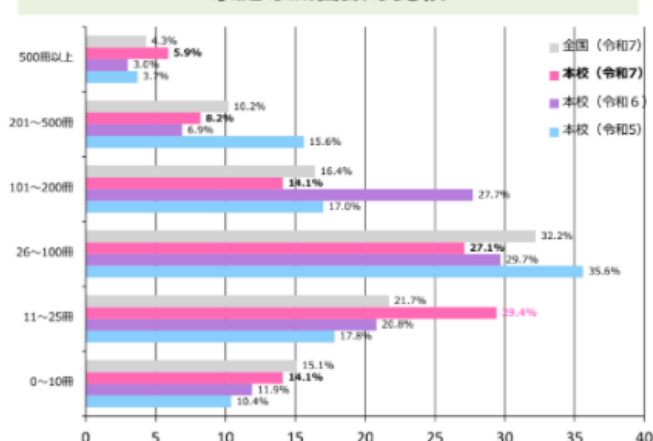
☑️ **当てはまらない**と回答した児童の割合



⚠️ **読書への否定的な意識**が他地域より高く、**読書習慣の支援**が必要。

また、「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」という質問に対しては、全国が「26～100冊」がボリュームゾーンでしたが、本校は「11～25冊」がボリュームゾーンでした。一方で、家に500冊以上の蔵書があると回答した児童は全国平均より多く、御家庭での読書環境や読書習慣に差があることも明らかとなりました。

家庭の蔵書数の比較



これらの結果を踏まえ、11月10日（月）から11月21日（金）の2週間にかけて設定されている「秋の読書週間」には、朝読書の時間を設定します。また、11月13日（木）の朝学習には、保護者の方による読み聞かせをしていただきます。加えて、児童や教員の「おすすめの本カード」の作成や、図書委員会による「もみじ読書キャンペーン」も行います。

読書活動は、学校と家庭が連携して子どもたちを見守ることが大切です。文化庁の調査では1か月に1冊も本を読まない人が6割を超え、全世代で本離れが加速していると言えます。我々大人も意識的に本を手にとったり、お子さんと一緒に読書をする機会を設定したり、日常生活の会話を通して心のつながりをより強固にしたりするなど、御家庭の状況に合わせた取組を工夫していただけますと大変ありがたいです。

今後も、保護者の方と共に子どもたちを見守っていきたいと考えておりますので、御理解・御協力の程、よろしくお願いいたします。